



# 西中学校だより

令和5年3月27日  
東久留米市立西中学校



## 令和4年度 修了式式辞

校長 藪野 勝久

令和4年度を終えるに当たり、1・2年生の皆さんに「幸福な人生のスタイル」というお話しをしたいと思います。

人間の悩みの問題は、必ず他者や集団との関わりという、人間関係にあります。例えば、一見無関係にも思える、勉強ができないといったことや、歌が上手下手、或いは容姿の問題など、他者がいるからこそ問題が起こるのであり、他者と呼ばれる人々がいない、つまり比較する人がない限り、独りぼっちの世界では起こるはずはありません。だから、悩みのない、人生の幸福の問題は、他者との関係の問題、関わり方の問題だと言うことになります。

ある人は、対人関係さえ良ければ人間の基本的欲求は満たされ、幸福感が得られる、といった趣旨のことを述べています<sup>1</sup>。だから人間関係、つまり他者との関わりが人生の幸福を左右するのです。

では、どのように他者との関わりを持てば良いのでしょうか。よくこんな人がいます。「自分は褒められて育つ人なんです。」

たしかに褒められたい、認められたいと言う欲求は誰にでもあるものです。これを承認欲求と言います。しかし、この承認欲求が余りに強い人は様々な人間関係のトラブルを起こしてしまいがちだということが分かっています。

例えば、良い行いも褒められないとしないとか、逆に怒られるからしない、怒られないならする、つまり、正しいかどうかと言う判断で行動せず、褒められる、怒られるという基準で自分の行動判断をしてしまうのです。

最近のSNS動画で問題になっている映像を投稿する人たちは、その投稿が正しいかどうか、と言うことより、ウケるかどうか、つまり「いいね」と褒められるかどうか、と言う基準で判断します。この様に、他の人から関心を持たれたいとか、認められたい、褒められたいという事ばかりに固執している人は、適正な判断ができなくなり、結局は皆から敬遠されてしまいます。

ある人は、「幸福な人とは、…客観的な生き方をしている人である」と言っています<sup>2</sup>。難しいので解説しますと、客観の反対は主観です。では「主観的に生きる」とはどういうことかということ、自分だけの枠組み、自分だけの価値観でものを考え、自分が何時も中心になって生きていこうとする生き方です。だから先のSNS動画投稿者はこれに当たります。

逆に「客観的に生きる」とはその反対で、自分中心ではなく、広く世を見渡し、社会の人達のことを先ず考え、人々との関係を大切にして生きていく生き方を言います。そういう生き方をしていると、人から認められたり、興味を持たれたりします。そうすることで、社会とのつながりも生まれ、だからこそ、

幸福になれると言うのです。誰も自分に関心を示さない、「いいね」と認めてくれない、と嘆くのではなく、先ずは自らが他者に関心を示していくことが大切であり、こうした他者との関わり方が大切だ、と言っているのです。これが先の、「どのように他者との関わりを持てば良いのか」、という問に対する答えだと思ふのです。

「でも、関心を持つって、苦手な人もいるじゃないですか、好きでない人をどうやって関心を持って言うのですか」と考える人がいるかもしれません。

ある人は面白いことを言っています。雨が降ったら、あなたはどうしますか。傘をさすでしょう。決して雨を止めようとはしないでしょ、と。人間関係も雨と同じで、変えられない相手の感情を変えようとしたりすることはできないでしょ、と言っているのです<sup>3</sup>。それにもかかわらず、人は皆、自分を変えようとせず、相手を変えようとする。「苦手な人」とは、自分には合わないとすぐに結論することが多いように思います。それは、自分を変えようとせず相手を変えようとする考え方にその原因があるのではないのでしょうか。だとすれば、それは雨を降らせないように、雨を止めようとしていることと同じです。だから、苦手な人であっても、先ず、自らが笑顔で接したり明るく声をかけたりと、仲間に関心を示すことから初めてはどうでしょうか。そうしているうちに、きっと相手に関心が持てるようになると思うのです。

それからもう一つ、一人の相手だけでなく、社会に関心を持ち、貢献することが幸福な人生への道だ、とも言っています<sup>4</sup>。どういうことかというと、例えば、部活動や、掃除活動、行事の取組などで積極的に自らが学級などの集団に働きかけると皆から好感を持たれ、仲間意識（「仲間感」）を生みます。すると、自然と自分に集団への所属意識が芽生えます。それは、独りぼっちではないんだ、と言った、安心感にも繋がるのです。そして、自分だけが利益を受けるといった考えはなくなり、集団や社会に貢献しようとする「人生のスタイル」が生まれ、自分を価値あるものと感じるようになります。こうした社会に関心を持つ「人生のスタイル」が幸福な人生だと言うのです。

「共生」という言葉がありますが、それは他者や集団に先ず自らが貢献するという「人生のスタイル」なのです。自分中心ではなく、他に貢献することを通して幸福な人生が歩めるのです。独りぼっちでは悩みが起らないと言いましたが、同様に、独りだけの幸福もありません。私は、こうした「幸福な人生のスタイル」を持って生きていく人を「良き社会人」と呼んでいるのです。皆さんが良き社会人となって幸福な人生を歩むことを心から願っています。

---

<sup>1</sup> A. H. マズロー (人間性の心理学 p.380)

<sup>2</sup> バードランド・ラッセル (幸福論 268)

<sup>3</sup> アルフレッド・アドラー (人生の意味の心理学 p105)

<sup>4</sup> 前掲3 (前掲 p8)